

一 般 質 問 通 告 事 項

(令和元年第4回白岡市議会定例会)

第1通告者

16番 石原富子 議員

1 小中学校学区の見直しは

現在の学区制度は白岡市立小・中学校通学区域に関する規則により定められているが、篠津小学校から中学校に進学する際に不都合を感じている生徒が多い。改善の余地はないか。

- (1) 篠津小学校から中学校に進学する生徒が迷っていることに対して、どのような認識を持っているか。
- (2) 子どもたちの不安を解消するための具体策をどのように考えているか。
- (3) 関連する行政区の見直しも早急に具体的な検討が必要と考えるが、見解を伺う。

2 地域包括ケアシステムの活用は

急速な高齢化の中、地域包括ケアシステムの活用は不可欠である。特に増加する認知症対策について伺う。

- (1) 認知症患者の現状は。予備軍も含めて伺う。
- (2) 市内2か所にある地域包括支援センターへの相談件数・内容はどのようなものか。
- (3) 認知症サポーター養成講座の現状と効果を伺う。
- (4) 効果を広げるために小中学生対象に認知症サポーター養成講座を開いてはどうか。
- (5) 認知症地域支援推進員の活用はどのようになされているか。
- (6) 地域ケア会議の課題は何か。
- (7) 高齢者福祉計画第8期介護保険事業計画へはどのようにつながっていくか。

第2通告者

2番 野々口 眞由美 議員

1 新白岡駅周辺の開発及び発展について

- (1) 売却も視野に入れた新白岡駅東口の市有地の利活用について伺う。
 - (2) 新白岡駅周辺の今後の発展、賑わいのある街づくりについて伺う。
- 2 保育所待機児童問題について
- (1) 保育所は、どのような計画のもとに設置されているのか。
 - (2) 入所の公平性について、入所後の見直し及び新年度入所時の公平性はどのようにされているのか。
- 3 令和元年度の白岡市教育行政について
- (1) 市の子どもたちの教育環境や育ちについて、教育長の教育理念と学校教育全体構想について伺う。

第3 通告者

15番 遠藤 誠 議員

- 1 人口減少と世帯数の増について
- (1) どう分析しているのか。
 - (2) 市長は分析に照らしてどう考えているのか。
- 2 コミュニティ・スクールと教育委員の選任について
- (1) 昨年9月のコミュニティ・スクール説明会に教育委員は出席していないのか。
 - (2) グランドデザインを作り直すべき大きな変化だと思うがいかかか。また変化は一元から多元社会への対応なのではないか。
 - (3) 委員の構成について教えることの関係者に偏っていないか。
 - (4) 法的思考をする人材が欠けているのではないか。
- 3 第3局（市民）の伸張つまり「自治」こそ市の発展ではないか
- (1) 市長の考えは。
 - (2) 市社会福祉協議会、シルバー人材センターは第3局（市民）ではないのか。
 - (3) 第3局（市民）を安易に市職員の再就職の場にしては大きな損失ではないのか。
- 4 地域支援事業の進捗について
- (1) 介護予防・日常支援総合事業は手を挙げたのはいつから、補助

は受けているか。

(2) ささえあいミーティングはうまく介護予防・日常支援総合事業につながるのか。

(3) 交通事業はどこまで進捗したか。

(4) こうしたグランドデザインを基礎にするような事業を担当するのが今の体制で大丈夫なのか。

(5) 第2層協議体はどうするのか。

5 パース（透視図）について

白岡中周辺の開発後をイメージするパース、白岡駅西口のパースを作るべきではないか。

第4 通告者

11番 中川幸廣 議員

1 広域行政について

次年度の予算策定の着手時期になるが、厳しい財政状況の中で経費削減の方法の一つとして広域行政の取組が重要と考える。既に、衛生組合、斎場組合、消防組合などが運営されているが、更なる広域内での行政活動の考えについて伺う。

(1) 隣市・広域内、更には市長会などで広域行政について話題やテーマになっていないか。

(2) 広域行政について埼玉県の影響はないのか。

(3) 広域行政はややもすれば地方自治体にとり自らの自治体が発展と埋没の両刃の剣になりやすいが、この点について市長の考えを伺う。

2 新知事の誕生と白岡市との関係について

上田県政が終焉し、新知事の辣腕を我々県民は県民税の納税者として願うばかりである。ついては、新知事と白岡市の関係について伺う。

(1) 今までの知事は、当該選挙区の衆議院議員とは同一線上に位置しているとは思えない。そのような点から、新知事と衆議院議員そして白岡市との関係はどうお考えか。また、市長は新知事に対してどのように感じ、何を期待なさるのか伺う。

第5通告者

5番 関口昌男 議員

1 人事院勧告と市役所に働く労働者の給与改定について

- (1) 今年的人事院勧告について
- (2) 白岡市の職員の給与改定について
- (3) 非常勤職員の待遇改善について
- (4) 全ての市職員の給与改定について
- (5) 再任用職員の考え方について
- (6) 役付再任用制度について
- (7) この問題についての市長の取組の姿勢について

2 会計年度任用職員制度の導入について

- (1) 会計年度任用職員該当者の把握について
- (2) 新しい職の整理と該当者について
- (3) 該当職員の要求について
- (4) 該当職員の意見聴取と話し合いについて

3 学童保育の長期休み入所時の給食の導入について

- (1) 学童保育の水準の確保について
- (2) 学童保育所の長期休み入所時の給食の導入の検討を
- (3) 学校の給食施設を利用した給食の提供は。

第6通告者

10番 加藤一生 議員

1 地域公共交通及び既存交通機関の改善について

- (1) 「白岡市のりあい交通」の更なる周知普及策として、幼稚園児から小学生までを対象にして、夏期・冬期・春期の休暇期間に、当該交通の利用空き時間がある昼間の時間帯を利用し、大規模な体験乗車会を開催する考えはあるか。
- (2) 白岡駅西口発着の唯一の市内起点である民間路線バスの運行路をモラージュ菖蒲まで延伸してもらうよう当該の民間バス会社に要請・要望する考えはあるか。

2 市職員の労務管理におけるコンプライアンスについて

- (1) コンプライアンスの二つの側面の当市の現状について質問する。
「法令遵守」において、サービス残業を促すもしくはそうせざる

を得ないような雰囲気を作り出し、結果、実残業時間より少ない給料を支払っているようなことはないか。また、「倫理遵守」において、パワハラ等のハラスメント行為が行われていることはないか。

- (2) コンプライアンスを可視化し明白化していくため、その手始めとして、まず「タイムレコーダー」の導入を検討してはどうか。

第7 通告者 17番 江 原 浩 之 議員

1 白岡駅西口線及び白岡駅西口駅前広場について

- (1) 現在の事業認可区間の進捗状況と完了の見通しは。
- (2) 既存道路との交差点は、どのような通行形態になるのか。
- (3) 白岡駅西口線と白岡駅西口駅前広場の今後の整備予定は。

2 旧庁舎解体に伴う跡地利用について

- (1) 旧庁舎解体工事の進捗状況及び解体工事後の土地利用形態は。
- (2) シルバー人材センター利用者の駐車スペースを確保すべきと考えるが、市はどのように考えているのか。

第8 通告者 4番 山 崎 巨 裕 議員

1 市役所連絡所の拡充について

- (1) 白岡駅西口の市役所連絡所の設置の経緯について
- (2) 白岡駅西口の市役所連絡所の今後の見通しについて
- (3) 大山地域や新白岡地域の市役所連絡所の開設について
- (4) 大山・新白岡地域の市役所連絡所の設置は地域の利便性・活性化に役立つのでは。

第9 通告者 1番 中 村 匡 志 議員

1 道路財源・子育て財源の充実について

- (1) 市の歳入の約半分を占める市税につき、市には、税収の増加を図るための具体的な戦略・方針や施策があるか。ある場合には、それはどのようなものか。また、今後利用しうる手段があるとするればそれは何か。
- (2) 市の歳入の約35パーセントを占める国や県からの支出金・交付金・譲与税につき、現状において、市は、国や県に財源確保の

ための要望・陳情等をどの程度行っているか。また、今般の知事交替をふまえると、今後、国や県への要望・陳情の強化等の方法により支出金・交付金・譲与税を増額することは可能か。

- (3) 分担金・負担金（や同趣旨の財源）につき、現状活用されている保育所・学童保育の保護者負担金以外の道路・子育て財源として、以下の制度を活用できないか。

ア 都市計画法75条の受益者負担金制度

イ 地方税法の定める国民健康保険税以外の目的税（同703条の水利地益税・同703条の2の共同施設税・同703条の3の宅地開発税）の制度

ウ 人間らしい生活に必須の供給(Daseinsvorsorge)に関する公共料金制度

- (4) 地方財政法5条がいわゆる建設債の発行を認めていることに鑑み、道路・子育て財源として市債の活用を拡充する考えはないか。また、昨年度起債した市債の利率は何パーセントか。

2 小中学校の通学路や保育園等の散歩コース、その他生活道路の安全確保について

- (1) 市は保育園（保育所・地域型保育事業所）の散歩コースを把握しているか。（市の管轄を超える場合には、この点につき県との情報共有はあるか。）

(2) 幼稚園についてはどうか。

- (3) 交差点への車止めポールや歩道への縁石、ガードレール・ガードパイプは、いかなる方針・順序に基づき設置されているのか。特に、小中学校の通学路や保育園等の散歩コースについて優先的に設置する等の方針はあるか。

- (4) 生活道路が事実上幹線道路のバイパスとなってしまう交通量が多い道路について、市として状況把握がしづらいものと認識しているが、例えばこれまでに、市民の情報提供により交通量調査等を行った事例はあるか。また、今後そのようなことを行う考えはあるか。

- (5) もし交通量が多い場合には、法律上・事実上の乗入れ規制等、何らかの対策を打つことは可能か。
- (6) 小学校に登下校通知システムを導入する必要性について、市はどのように考えているか。また、もし導入する場合にはどの程度の予算が必要か。

第10 通告者

8 番 菱 沼 あゆ美 議員

1 防災の向上について

- (1) 市民全体の防災意識向上の取組として、自主防災組織と地区防災計画の推進が重要である。自主防災組織の現状は。また、地区防災計画に取り組んでいる地域やマンションなどはあるか。市として職員で推進チームを作り、目標を定めて市全体に行きわたらすべきと考えるがいかがか。
- (2) 避難行動要支援者への取組状況と、今後の推進は。自主防災組織が100%ではないことから、介護のケアプランや障害者総合支援法のサービス等利用計画に、災害対応を入れることで、地域のカバーがある程度出来ると考えるが、いかがか。また、どう避難支援を行うのかの避難訓練を実施するべきだが、どうしていくのか。
- (3) 幅広い避難所の検討・準備と協定などについて伺う。
- (4) ファーストミッションボックス（避難所開設など）を設置してはどうか。
- (5) 液体ミルクの備蓄について伺う。
- (6) 災害廃棄物仮置場は選定されたが、ゴミの分別についてどうされるのか。

2 読み書き支援の推進について

地域生活支援事業の中の意思疎通支援事業があるが、職員やボランティアの方に情報支援員の養成を行い、視覚障がい者や弱視、高齢者などの様々なニーズに対応していくべきではないか。

第11 通告者

12 番 藤 井 栄一郎 議員

1 防災行政用無線の運用について

(1) 防災行政用無線の現状・課題はあるのか、運用状況について伺う。

(2) 防災行政用無線の有効活用を考えるべきと思うがどうか。

2 都市計画道路等の整備促進について

(1) 白岡宮代線の供用開始に向けた取組はどのようになっているのか。

(2) 白岡宮代線の将来構想はどのように考えているのか。

(3) 市道の管理体制はどのようになっているのか。

(4) 今後の都市計画道路の整備計画はどのように考えているのか。

第12通告者

7番 中山 廣子 議員

1 高齢者・障がい者の使用済み紙おむつ等無料収集について

(1) 現在、高齢者の方で介護認定を受けている人数・その中で在宅で介護をされている人数・そのうち「紙おむつ等給付事業」を利用されている人数を伺う。また、障がい者の方の障がい者手帳の所持者数と「紙おむつ等給付事業」に登録している人数を伺う。

(2) 使用済み紙おむつ等を無料収集してはどうか。

2 市立図書館の現状と利用等について

(1) 今年の10月1日で新しい図書館が開館して丸1年が経つ。現在の図書館の蔵書数・内容・1日の利用者数・年代別利用割合・市内と市外の方の利用者数・大活字本の全体に対する割合等、現在の状況を伺う。

(2) 図書館に行きたくても、移動手段が無くて行けないという話を聞くが、図書館に足を運べない方の為に、宅配サービスを行ってはどうか。

3 都市公園の樹木について

(1) 現在白岡市には、31か所の都市公園があるが、この公園の点検について現状を伺う。

(2) 都市公園の点検・保全には、市民からの情報提供が大事になると思うが、市民への協力依頼等は、どのようにしているか伺う。

(3) 都市公園にある様々な樹木について、散策に来られた方や子ど

もたちが興味を持ち、樹木を大事にする気持ちを育み、楽しんでいただけるようネームプレートを付けてはどうか。

第13 通告者

3 番 齋 藤 信 治 議員

1 子どもの貧困対策を問う

子どもの貧困対策の推進に関する法律の一部が改正され、市町村に対し貧困対策計画を策定する努力義務が課された。

- (1) 平成26年1月から現在までの当市の対策及びその評価は。
- (2) 学校をプラットフォームとした対策の具体的な状況は。
- (3) 市町村に対して貧困対策計画の策定義務が課された。当市の対応は。
- (4) 貧困にある子どもたちの実態を把握するための調査はできているか。

2 困難を抱えた子どもを守るために

子どもたちが一番長く過ごし、強く影響しているのが学校である。学校は子どもたちの問題にどのように対処しているのか。

- (1) 子どもたちが相談する体制について
- (2) 困難を抱えた子どもたちの実態は。
- (3) スクールカウンセラーの配置状況が変わった。何故か。
- (4) スクールソーシャルワーカーへの派遣依頼及び派遣の実態は。
- (5) スクールソーシャルワーカーの活動実績は。
- (6) 困難を抱えた子どもたちが信頼を寄せる担当者と、学校にいるときはいつでも話のできる状況を作り出せないか。

第14 通告者

6 番 松 本 栄 一 議員

1 小学校の教科担任制導入について

- (1) 当市における教科担任制の現状は。(低学年・高学年別、音楽、図工・家庭科など)
- (2) 2020年度から、5・6年生の英語の教科化とプログラミング教育の必修化があるが、教科担任制への対応は。
- (3) 兵庫県は既に導入しており、福島県も導入を検討しているが、当市の検討状況は。

2 ふるさと納税の今後について

- (1) 当市のふるさと納税は、2016年度に最高の寄付を頂いたが、以降は減少している。2016年度以降の件数と寄付額の推移、及び返礼品における指定が多い品目と寄付額が多い品目の現状と減少の要因分析は。
- (2) 2018年度から返礼品に加えた「ドッグスクール」は、良い品目と思っていたが、現状は。
- (3) 返礼品について、商品での提供は、当市の特産品のみでは限りがある。運営会社を増やす考えもあるが、新たな品目の拡大をどのように進めるのか。

第15通告者

9番 渡辺 聡一郎 議員

1 公共交通の改善策と今後について

- (1) ネット予約の導入効果について伺う。また、予約の不成立解消など利便性の改善にどのように取り組むのか。
- (2) 委託料について伺う。事業の効率性の検討はなされているか。事業者インセンティブが働く仕組みづくりが必要ではないか。
- (3) 利用者の増加とともに乗り合い率を高めていく必要があるが、目標や対策は検討されているのか。
- (4) 令和3年度に事業の見直しを行うとのことだが、その要点について伺う。持続性のある運営方法、インセンティブ付委託契約、新交通の研究・検討等が必要ではないか。

2 子育て世代に選ばれる街になるために

- (1) 「子育て支援についてのアンケート調査」の結果を踏まえ、市は今後どのような子育て支援に力を入れていくのか。
- (2) 子育て世帯の移住促進の取組と市外へのPRについて伺う。
- (3) 新生児誕生のお祝い記念について伺う。子育て支援課がリニューアルし継続すべきと考えるがどうか。
- (4) こもれびの森のソフト事業の充実と公式サイトの開設について伺う。

3 学童保育料の値上げについて

- (1) 学童保育料の値上げについて、改めてその経緯と理由を伺う。
- (2) 負担軽減措置が必要ではないか。所得に応じた減免について検討がなされないのはなぜか。
- (3) 今後の保育の質の向上や支援員の待遇改善について指針を示す必要があるのではないか。
- (4) 市の保育の理念について市長に伺う。市では今後どのような保育を目指し、それにかかる財源負担の在り方をどのように考えているのか。

第16通告者

14番 大島 勉 議員

1 梨のまちしらおかとして

- (1) マスコットキャラクター(なしべえ・なしりん)の活用状況は。
- (2) 白岡美人プロジェクトはどう進んでいるか。
- (3) マスコットキャラクターの今後の活用は。

2 市道の歩道整備の現状は

- (1) 歩道の現状と整備方針は。
- (2) 市民にやさしい整備とは。